

「マサカ」に備えて

防災アドバイザー 香川大学客員教授
乃田 俊信

かがわ自主ぼう連絡協議会の皆様におかれましては、日頃から地域はもとより、県下一円の防災・減災の要としてご尽力・ご活躍されており、心から感謝申し上げているところであり、また、皆様方の企画力・実行力、そしてその輝かしい実績は、県内外はもとより、中央からも極めて高く評価されており、衷心より敬意を表しているところであります。

さて、このたび投稿のご依頼があり駄文を提示することになりましたが、今回お話しする内容は、皆さま方にこれを知っておいてもらいたいというおこがましい思いからでは決してなく、皆様方が一般市民の方々を教導される際の資料として活用していただければ幸いに思い、筆を執っております。

1 「人生には、3つの坂がある」

これは、ある仏教界の高僧の説法の一説に出てくる言葉です。

- ① 一つは；「上り坂」
- ② 二つは；「下り坂」
- ③ **三つ目は；「マサカの坂」**

この「マサカの坂」は、「まさかそんなことが起きるはずがない」ではなく、「まさかそんなことが・・・とと思っていることが往々にして起きるのが人生」ということであり、人生は順風満帆、平穏ばかりではなく、大病・不慮の事故等、起こってほしくないことも想定し、事前に備えておくことの重要性を説かれたものと思います。

これは、防災についても全く同じことが言えると思います。

「この地域には大きな災害は起きない、自分や家族は大丈夫」と思い込んではいないでしょうか？

2 あなたはこの「マサカ」をどれだけ覚えていますか？

下表は、近年（阪神・淡路大震災以降）発生した大規模な自然災害を抜粋したのですが、私たちはこれらの災害のうち、どれだけを即座に思い出せるでしょうか？

近年発生した主要な自然災害（「マサカ」）	
①	1995年 阪神・淡路大震災：M7.3 死者6,434名
②	2000年 鳥取県西部地震：M7.3 死不なし
③	2001年 芸予地震：M6.7 死者2名
④	2004年 台風23号風水害（豊岡市全域冠水） 死不99名
⑤	2004年 新潟県中越地震：M6.8 死不65名
⑥	2004年 香川県相次ぐ台風・高潮災害 死者19名
※	2004年 スマトラ・アンダマン地震・津波 M9.2 死不28万人超（世界史上最悪の津波被害）
⑦	2007年 新潟県中越沖地震：M6.8 死不15名
⑧	2008年 岩手・宮城内部地震：M7.2 死不23名
⑨	2011年 東日本大震災：M9.0 死不2万名以上
⑩	2011年 台風12号風水害（紀伊半島豪雨）：死不110名
⑪	2012年 2012年九州北部豪雨：死不30名
⑫	2014年 8月豪雨と広島土砂災害：死不240名
⑬	2014年 御嶽山噴火：死不63名
⑭	2015年 関東・東北豪雨（鬼怒川堤防の決壊）：死不8名
⑮	2016年 平成28年熊本地震：死不98名（関連死含む）
⑯	2017年 2017年九州北部豪雨：

更に、今年になってからも大阪北部地震、西日本豪雨、北海道胆振東部地震、台風24号災害等ますます多発傾向となってきています。

これらの災害で犠牲になったり大きな被害を被った人たちの中に、「自分たちがこんな大災害に見舞われるかもしれない」と想定していた人たちが果たして何人おられたのでしょうか？ しかし、**現実には、これだけ多くの人たちが犠牲になり、甚大な被害を被っている**のです。

「マサカ」は、「起きるはずがない」ではなく、「往々にして起きる」のが災害なのだ**と銘記すべきだ**と思います。

3 分かっている、なぜ備えようとならないのか？

私たちは、いつ起きるか分からない災害に対し、何も無い今、しっかりと備えることの重要性については十分にわかっているのですが、なかなか備えようとならないのはなぜでしょうか？

(1) 「当事者意識」を持ってない

ここで皆様にある状況を想定して自問していただきたいと思います。

「仕事を終え、ぐっすりお休みになっていた深夜、あの阪神・淡路大震災や熊本地震に匹敵するM6強～M7クラスの激震がすぐ近くで起きたと考えてください。そこであなたは、5分後に何をしていますか？ 1時間後には何をしていますか？ そしてあくる日の朝には何をしていますか？」

初めてだとは思いますが、ちょっと考えてみてください。

多くの方は、「先ず家族の無事を確認し、自宅の被害状況を調べ、余裕ができれば、隣・近所へ声をかけ安否確認する。あくる日は、関係するところに連絡を取り、地域を見回り、救助に当たる。」と、思われたことでしょうか。

一方、「そんな大きな地震が枕元で起きれば、自分や家族は死んでしまっているかもしれない」と、ふと思われた方は何人おられたのでしょうか？

そうです。いくら大きな地震（災害）が身近で起きようとも、（頭の中では）自分や家族だけは決して死んだり怪我をしたりはしないのです。死んだり怪我をしたりするのは、皆他人なのです。

これは「**正常化の偏見**」という「人間の基本心理」のなせる業で、人間自分にとって都合の悪い事・起こってほしくないことは、一瞬は脳裏をかすめても直ぐに否定されてしまいます。このため、私たちは**都合の悪い事の「当事者意識」を持つことがなかなか難しい**のです。

この「当事者意識を持つことが難しい」ことが、ついつい備えがおろそかになる大きな要因です。

(2) 災害は「いつ起きるか分からない」？

私たちが何かをしようとするときには、「何を」「いつまでに」といった目標を明確にすることが極めて重要です。例えば、受験生は試験日を目標に勉強に取り組みますし、イベント等を計画する場合は当日から逆算して計画を進めていくでしょう。

しかし、いつ起きるか特定できないものに対して努力を集中させることは並大抵ではありません。それではどう考えればよいのでしょうか。

地球温暖化等の影響で、災害の多発化・大規模化はますます加速化されています。九州北部豪雨や広島土砂災害で猛威を振るった線状降水帯やゲリラ豪雨、竜巻等もちょっとコースが変われば、わが地域を通過することもあり得ます。ま

た、南海トラフ地震は、すでに前の地震から70年以上経過して、歪が蓄積し、各地で頻繁にその前兆が見られます。

私たちは、「いつ起きるか分からない」ではなく、「いつ起きても不思議ではない」と認識を改める必要があります。

4 意識改革をしよう

私たちは、時・場所等を選ばずに、思いがけなく発生する危機（マサカ）に遭遇すると、パニックを起こし、正しい判断、正しい行動がとれなくなるものです。これが被害を大きくする原因となります。

このため、①「マサカ」は、「起きるはずがない」ではなく、「往々にして起きる」のが人生・災害なのだを銘記すべきだと思います。

次に、②「そんなこと（「マサカ」）が、この地域で起き、自分や家族が巻き込まれることはないだろう」ではなく、もしかしたら「自分や家族等が災害に巻き込まれるかもしれない」と、「当事者意識」を持つことが必要です。

さらに、③その「マサカ」は、「いつ起きても不思議ではない」と認識する必要があります。

「災害から、かけがいのない命を守る」。とてつもない大きなテーマです。私は、その中であって、一人ひとりの「意識」の占める役割の大きさを感じないではおれません。「意識」は備えを実行する原動力ですが、心の中にあるので、時とともに変化していくものです。この変化、特に「油断」が最も恐ろしいのです。

私たちは、誰一人として災害の発生を望むものはいないでしょう。そして、災害から被害を少なくする備えの必要性も十分に認識しています。しかし、しばらく平穏が続くと災害が意識の中から薄らいでいきます。

明治の物理学者・寺田虎彦は、「天災は、**忘れたころ**にやってくる」と、警告を残しています。この「忘れたころ」とは、「期間とか時間の経過」ではなく、「**忘れた状態**」を言うと思います。そしてその意味は、「天災は、過去の災害の体験や教訓が風化し、油断が生じたところに大きな被害をもたらす」ということで、**油断**や**心のゆるみを戒めた言葉**だと思います。

防災を考えると、もちろん対象（敵）は自然災害であるが、もしかすると**最大の敵は「自分の心の中（油断）」**にあるのかも知れません。

日本には、古くから「**油断大敵**」ということわざがあり、一方、イギリスの劇作家・シェークスピアは、「（根拠なき）**安心は、自分の最も近くにいる大敵**である」と言っています。洋と時代を隔てた二つの言葉を、原点に戻って、よく考えたいものです。

今月の事務局だよりは、報告とお知らせです。

1. 今月の防災減災の輪、乃田先生にお願いしました。

何時も心にひびくお言葉をいただき、私達の活動源に大きなプラス材料となっており、感謝申し上げます。

今回の「マサカ」も実に人間の心理を突いており、安心安全な生活を送るために欠かせないものだ痛感しています。この言葉の意味をしっかりとかみしめ、今後の活動に活かしていきたいと念じております。

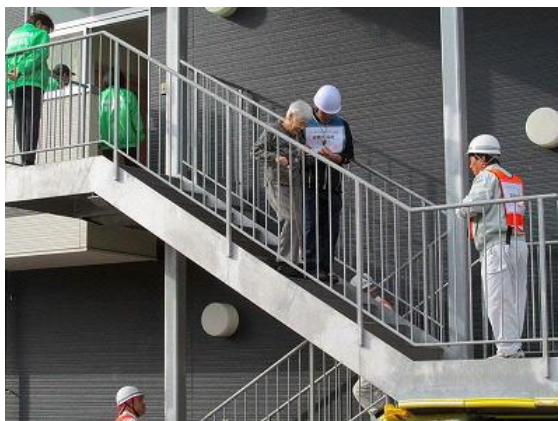
2. プラスワン訓練も終盤をむかえています

(1) 昨年に引き続き実施された福祉団体の皆さん、取組内容や関係職員の皆様の行動がより適確に行なわれています。とても心強い限りです。



本館前に避難集結 (坂出市)

(2) 初めて施設から高台を目指して、約200M要配慮者約30名の皆さんと車イス等を使っての避難訓練、途中の交通災害や、要配慮者の皆さんの体調を感じとりながらの避難、訓練とはいえ、ものすごいエネルギーと緊張感の連続、素晴らしい実戦訓練となりました。



非常階段を使い、助けあつての避難訓練 (三野町)



海拔10メートルの神社境内へ避難（詫間町）



県道を超えて行きます（三野町）



テントを利用した一時避難所（三野町）

（3）今年もあめ湯を訓練終了後に賞味していただきました。

「熱め」と「ぬるめ」の2種類に分け、提供しましたが、お代わりを3回する施設利用者もいるなど何時も喜んでいただき、女性軍も作ったかいがあったと笑顔の様子。



あめ湯を配りました（三野町）

編集後記

今月の防災減災の輪は、防災アドバイザー 香川大学客員教授 乃田様の原稿を掲載させていただきました。ありがとうございました。